

理容科

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書

(シラバス)

(別表第 1 - 1)

昼間課程 理容科 (卒業所要単位：67 単位以上)

課目区分		教科課目	総授業時間数	単位（30h/単位）
必修 課 目		関係法規・制度	3 0 時間以上	1 単位以上
		衛生管理	9 0 時間以上	3 単位以上
		保健	9 0 時間以上	3 単位以上
		香粧品化学	6 0 時間以上	2 単位以上
		文化論	6 0 時間以上	2 単位以上
		理容技術理論	1 5 0 時間以上	5 単位以上
		運営管理	3 0 時間以上	1 単位以上
		理容実習	9 0 0 時間以上	3 0 単位以上
小 計		1, 4 1 0 時間以上	4 7 単位以上	
選 択 課 目	一般 教養 課目	社会福祉	3 0 時間以上	1 単位以上
		芸 術	3 0 時間以上	1 単位以上
	専門 教育 課目	理容総合技術	2 4 0 時間以上	8 単位以上
		テクニカル	3 0 0 時間以上	1 0 単位以上
小 計		6 0 0 時間以上	2 0 単位以上	
合 計		2, 0 1 0 時間以上	6 7 単位以上	

課目基本情報

授業科目名	関係法規・制度	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	見谷亨、村田博臣		
教員実務経験	薬剤師 以上の経験を踏まえ、理容の業務に関する規定内容、社会的責務、職業倫理を養う		

授業・課目情報

学習目標	理容師法を中心に、理容の業務に関わる法令や制度を学ぶ。 理容業に関する法律や制度の意義、内容を学び、理容師として働く際の社会的責任や心構えを養う。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 理容師法関係法令集
授業計画	法制度の概要 ・ 社会生活における法の役割 ・ 法の形式 ・ 衛生法規の概要 ・ 理容師法と附属法令 衛生行政の概要 ・ 衛生行政の意義と歴史 ・ 衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 ・ 衛生行政を担う行政機関 理容師法 ・ 目的、用語の定義、人に関する規定、施設に関する規定 ・ 立入検査と環境衛生監視員 ・ 違反者等に対する行政処分 ・ 罰則 関連法規
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	衛生管理	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	90		
担当教員名	英俊彦、崎田敏晴、小川まどか		
教員実務経験	獣医師、薬剤師 以上の経験を踏まえ、消毒法の原理、衛生の意義と重要性を理解し身につける		

授業・課目情報

学習目標	公衆衛生全般、特に感染症、環境衛生等の知識を学ぶ。また、日常の業務に不可欠な消毒の意義、目的、及び実際の消毒方法についても学ぶ。 感染症や衛生管理の知識を習得し、公衆衛生の重要性を理解するとともに、実際に使用する器具の消毒方法を学ぶ。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 衛生管理
授業計画	公衆衛生 ・公衆衛生の概要、意義、課題 ・公衆衛生の発展の歴史 ・保健（各種保健） 環境衛生 ・環境衛生の概要 ・空気環境、衣服住居の衛生、上下水道と廃棄物、衛生害虫とネズミ、環境保全 感染症 ・感染症の総論、人と感染症、病原微生物、感染症の予防 ・感染症の各論、主な感染症、具体的な対策例 衛生管理技術 ・消毒法総論、消毒の意義、業務と消毒との関係、適用上の注意 ・消毒法各論、理学的消毒法、化学的消毒法 ・消毒法実習、各種消毒薬、消毒の実際、清潔法の実際 衛生管理の実施例 ・衛生管理要項 ・自主管理点検票
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	保健	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	90		
担当教員名	水野和明、桐原公郎、瀧口大輔		
教員実務経験	薬剤師、獣医師 以上の経験を踏まえ、理容技術の基礎となる人体の構造と機能の知識を養う		

授業・課目情報

学習目標	人体の構造・機能について学び、皮膚・毛髪などを生物化学的に理解する。理容の施術をするための知識を学ぶ 皮膚や毛髪、人体の構造と機能などに関する専門知識を、実際の理容技術に関連させて理解させる
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 保健
授業計画	人体の構造及び機能 ・頭部、顔部、頸部の体表解剖学 ・骨格器系（種類と構造、はたらき） ・筋系（種類とその特徴、はたらき、作業と筋疲労） ・神経系（成り立ち、はたらき） ・感覚器系 ・血液、循環器系（血液のあらまし、仕組み） ・呼吸器系（あらまし） ・消化器系（あらまし、仕組み、はたらき） 皮膚科学 ・皮膚の構造 ・皮膚付属器官の構造 ・皮膚の循環器系と神経系 ・皮膚と皮膚付属器官の生理機能（作用、はたらき等） ・皮膚と皮膚付属器官の保健（状態、手入れ等） ・皮膚と皮膚付属器官の疾患（種類等）
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	香粧品化学	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	60		
担当教員名	村田健一、川尻義典、瀧口大輔		
教員実務経験	薬剤師 以上の経験を踏まえ、正確な科学的知識と適正な技術知識を養う		

授業・課目情報

学習目標	施術の際に使用する器具や香粧品等を正しく取り扱う為に必要な知識を学ぶ。また、様々な化学薬品や器具、道具を使用する事を学ぶ。 理容機器や化粧品、薬剤などを正しく安全に使用する事を学ぶ。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 香粧品
授業計画	香粧品総論 ・香粧品総論 ・香粧品を使用する際に気をつけるべきこと ・香粧品の成り立ち ・油性原料、界面活性剤、高分子化合物、色材、香料 ・製品を安定させる配合原料、雑貨原料 香粧品各論 ・スキンケア製品 ・クレンジング用、コンディショニング用、トリートメント用香粧品 ・メイクアップ製品 ・ベースメイクアップ、ポイントメイク、アイメイク、まつ毛ケア製品 ・ネイルメイクアップ、ネイルケア製品 ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品 ・ヘアクレンジング用、ヘアコンディショニング用、ヘアスタイリング料 ・パーマ剤、ヘアカラー製品、スカルプケア製品
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	文化論	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	60		
担当教員名	叶井寿、川崎浩之、小川まどか		
教員実務経験	理容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの理容文化論研修課程修了 以上の経験を踏まえ、美的感覚を身につけ、芸術的な表現力と鑑賞力を養う		

授業・課目情報

学習目標	日本と西洋、それぞれの歴史の中で人々がどのような時代背景でどのような思想をもち、どのような美しさを求め、そしてどのようなファッションを展開したかを知ることにより、多くのデザインの要素やその組み合わせとその表現効果を学ぶ。 それらを学ぶことにより、伝えたいイメージの表現方法を知り、また、新しいデザイン・創造の一助となるように指導する。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 文化論
授業計画	総論 日本の理容業・美容業の歴史 ・理容業美容業の発生 ・理容業美容業（江戸時代、近代、現代） ファッション文化史 日本編 ・縄文・弥生・古墳時代 ・古代、中世、近世、現代 ファッション文化史 西洋編 ・古代、中世、近世、現代 礼装の種類 ・礼装（和装、洋装） ・礼装（洋装
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	理容技術理論	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	150		
担当教員名	叶井寿、川崎浩之、小川まどか、松村拳太		
教員実務経験	理容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの理容技術理論と実習研修課程修了 理容実習の学習状況と選択科目との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	理論技術について整然と道筋を立てて理解するために、科学的根拠や系統だった知識を身につける。 理容技術に理論的根拠をあたえ、技術の習得を容易にするため、科学的合理的な方法を学ぶ。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容技術理論 1 理容技術理論 2
授業計画	理容技術の基礎 ・人体各部の名称、技術姿勢、トレーニング 理容用具 ・理容用具と衛生、刃物 ヘアデザイン、ヘアカッティング、ヘアセッティング ・ヘアスタイリングとデザイン ・ヘアカッティングの基本原則 ・ヘアセッティングの種類 パーマネントセット、ヘアカラーリング ・ワインディング、パーマネントウェーブの種類 ・染毛剤の種類と原理 シェービング ・シェービングの基本技術と要領 特殊技術 ・エステティック、ネイル技術などの特殊技術 理容クリニック、シャンプー&リンシング、マッサージ、ヘアトリートメント、スカルプトリートメント ・カウンセリング、毛髪、頭皮の基礎豆知識、スカルプチェック ・シャンプー&リンシングの技法 ・理容マッサージのマニピレーション
授業の進め方	講義、小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	運営管理	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	叶井寿、川崎浩之		
教員実務経験	理容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの運営管理研修課程修了 理容業において、適切な接客態度の重要性と消費者対応の基本を養う		

授業・課目情報

学習目標	よりよい理容サービスによる顧客満足実現のための、経営者の責任・役割・雇用についての経営者目線で学ぶことにより、理容師として働く自分の姿を考え、より有能な人材として活躍できる知恵を身に付ける。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 運営管理
授業計画	経営者の視点 ・ 経営とは・経営者とは ・ 理容業・美容業の経営について ・ 資金の管理 人という資源 従業員としての視点 ・ 人という資源 ・ 健康・安全な職場環境の実現 ・ 従業員の視点から 顧客のために ・ サービス・デザイン ・ マーケティング ・ サービスにおける人の役割
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	理容実習	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	実技
時間数	900		
担当教員名	叶井寿、川崎浩之、小川まどか、松村拳太		
教員実務経験	理容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの理容技術理論と実習研修課程修了 理容理論の学習状況と選択科目との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	理容技術を習得するにはただ技術ができればよいというのではなく、高い目標を持つことが大切である。 技術を理解し、理解したしたことを意識的に体で行う。 意識的にやっていたことを無意識にできるようにする。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容実習 1 理容実習 2
授業計画	・スタンダードヘア 基本姿勢、姿勢の変化、スタンダードヘアカットの用具の持ち方と操作、ミディアムヘア、ブロー ・デザインヘア デザインヘアカットの用具の持ち方と操作、ブロッキング、デザインカットの基本的パターンと基礎技術、デザインカット ストロークカット・チョップカット、レザーカット ・ヘアセッティング 基本セット、ドライヤーセット ・パーマネントウェービング アップシステム（上巻き）、ダウンシステム（下巻き） システムによる仕上がりの違い、ワインディングの良い例・悪い例 特殊ロッドによるワインディング、スタイル別ロッド配列、注意点 ・アイアニング 持ち方と技法、アイアニングの手順 ・ヘアカラーリング 白髪染め、おしゃれ染め、フロスティング、ティッピング、 ストリーキング、フロントグラデーション ・シェービング 基本技術と要領、メンズフェイスシェービング、メンズネックシェービング フェイシャルトリートメント、レディースシェービング、スキンケア ・ハンドケア ネイルケア、ハンド&アームマッサージ ・フットケア ・ヘアクリニック ヘア&スカルプチェック、ヘアトリートメント ・シャンプーイング&リンシング スタンドシャンプー、バックシャンプー ・ヘッドマッサージ ・クリニックマッサージ
授業の進め方	各項目、採点を行う 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験 相モデル及びモデルウィッグによる実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする。 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	社会福祉	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	30		
担当教員名	前川直樹		
教員実務経験	社会福祉士 以上の経験を踏まえ、社会福祉の意義と福祉施設や地域のボランティア活動の重要性を学ぶ		

授業・課目情報

学習目標	社会保障に関する基礎的な知識を身につけ、高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい社会福祉の実現 社会福祉を学ぶことを通じて、適切な対応が出来る知識と技術を身につけて、地域の人々から支持されることを目指す。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 社会福祉
授業計画	現代社会と社会福祉 医療保障 所得保障 社会福祉 高齢者と障害者の体と心 高齢者・障害者の介助 高齢者・障害者に対する理容の実践 理容師と社会貢献活動
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学年末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	芸術	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	30		
担当教員名	国友博		
教員実務経験	高等学校美術講師、絵画教室講師 以上の経験を踏まえ、ヘアスタイルをデザインするために必要な知識と技術を養う		

授業・課目情報

学習目標	優れた芸術作品に親しみ、鑑賞する能力を身につけ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。 顔のバランスやプロポーションに対する理解を深め、正確に観察する力、またヘアデザインについての創作的な技術を身につける
教科書	ペン1本で誰でも描けるパターンアート 「ゼンタングル」 決定版 脳の右側で描け ワークブック 第2版
授業計画	基礎技術 ・ヘアデッサン（顔のバランスやプロポーション） 見る目、形を見る力つけ、表現する 応用技術 ・総合的な物の考え方 ・発想力を生かしたボード制作 ・道具を合理的に使用した作品制作
授業の進め方	鉛筆、色鉛筆、絵の具等を用いての作品制作
試験の実施方法	学年末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	理容総合技術	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	240		
担当教員名	叶井寿、川崎浩之、小川まどか、松村拳太		
教員実務経験	理容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの理容技術理論と実習研修課程修了 理容理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	必修課目において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につけるとともに、理容デザインの最新のサロンスタイルについて学ばせること。 常に新しい技術の吸収を怠らず、また、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付け、専門技術者としての心構えを身に付けさせること。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容技術理論 1、2 理容実習 1、2
授業計画	・毛髪管理 毛髪診断、カウンセリング、クリニックシャンプー、クリニックマッサージ ・コンテストスタイル クラシカルバックスタイル（カット、セット） ・サロンスタイル ウィックを使ってメンズ、レディーススタイル作成 ・フォト撮影 スタジオ撮影（相モデルでのヘアメイク作成） ・接客
授業の進め方	講義 小テスト・実技テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験 相モデル及びモデルウィックによる実技試験とする。
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	テクニカル	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	300		
担当教員名	叶井寿、川崎浩之、小川まどか、松村拳太		
教員実務経験	理容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの理容技術理論と実習研修課程修了 理容理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	必修課目において習得した基本的技術を基に、さらに発展させた高度な技術を身につけるとともに、理容デザインの最新のサロンスタイルについて学ばせること。 常に新しい技術の吸収を怠らず、また、自らも新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付け、専門技術者としての心構えを身に付けさせること。
教科書	全理連ヘアカウンセラー資格認定講習テキスト 公益社団法人 日本理容美容教育センター 理容技術理論 1、2 理容実習 1、2
授業計画	・毛髪管理 毛髪診断、カウンセリング、クリニックシャンプー、クリニックマッサージ ・コンテストスタイル クラシカルバックスタイル（カット、セット） ・サロンスタイル ウィックを使ってメンズ、レディーススタイル作成 ・フォト撮影 スタジオ撮影（相モデルでのヘアメイク作成） ・接客 インストラクター指導による実習 ・美剃師検定 シェーピング理論 マネジメント講義 ・認定フェイシャルエステティシャン
授業の進め方	講義 小テスト・実技テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験 相モデル及びモデルウィックによる実技試験とする。
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

美容科

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書

(シラバス)

(別表第 1 - 2)

昼間課程 美容科 (卒業所要単位：67 単位以上)

課目区分	教科課目		総授業時間数	単位（30h/単位）	
必修 課 目	関係法規・制度		3 0 時間以上	1 単位以上	
	衛生管理		9 0 時間以上	3 単位以上	
	保健		9 0 時間以上	3 単位以上	
	香粧品化学		6 0 時間以上	2 単位以上	
	文化論		6 0 時間以上	2 単位以上	
	美容技術理論		1 5 0 時間以上	5 単位以上	
	運営管理		3 0 時間以上	1 単位以上	
	美容実習		9 0 0 時間以上	3 0 単位以上	
小 計			1, 4 1 0 時間以上	4 7 単位以上	
選 択 課 目	一般 教養 課目	社会福祉	3 0 時間以上	1 単位以上	
		芸 術	3 0 時間以上	1 単位以上	
	専 門 教 育 課 目	メイクアップ	6 0 時間以上	2 単位以上	
		着付け	6 0 時間以上	2 単位以上	
		カット	6 0 時間以上	2 単位以上	
		選 択	ヘアカット	9 0 時間以上	3 単位以上
			ヘアメイク	9 0 時間以上	3 単位以上
		美容総合技術	2 7 0 時間以上	9 単位以上	
小 計			6 0 0 時間以上	2 0 単位以上	
合 計			2, 0 1 0 時間以上	6 7 単位以上	

課目基本情報

授業科目名	関係法規・制度	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	見谷亨、村田博臣		
教員実務経験	薬剤師 以上の経験を踏まえ、美容の業務に関する規定内容、社会的責務、職業倫理を養う		

授業・課目情報

学習目標	美容師法を中心に、美容の業務に関わる法令や制度を学ぶ。 美容業に関する法律や制度の意義、内容を学び、美容師として働く際の社会的責任や心構えを養う。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 関係法規・制度 美容師法関係法令集
授業計画	法制度の概要 ・ 社会生活における法の役割 ・ 法の形式 ・ 衛生法規の概要 ・ 美容師法と附属法令 衛生行政の概要 ・ 衛生行政の意義と歴史 ・ 衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 ・ 衛生行政を担う行政機関 美容師法 ・ 目的、用語の定義、人に関する規定、施設に関する規定 ・ 立入検査と環境衛生監視員 ・ 違反者等に対する行政処分 ・ 罰則 関連法規
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	衛生管理	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	90		
担当教員名	英俊彦、崎田敏晴、小川まどか、瀧口大輔、川森慎司		
教員実務経験	獣医師、薬剤師 以上の経験を踏まえ、消毒法の原理、衛生の意義と重要性を理解し身につける		

授業・課目情報

学習目標	公衆衛生全般、特に感染症、環境衛生等の知識を学ぶ。また、日常の業務に不可欠な消毒の意義、目的、及び実際の消毒方法についても学ぶ。 感染症や衛生管理の知識を習得し、公衆衛生の重要性を理解するとともに、実際に使用する器具の消毒方法を学ぶ。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 衛生管理
授業計画	公衆衛生 ・公衆衛生の概要、意義、課題 ・公衆衛生の発展の歴史 ・保健（各種保健） 環境衛生 ・環境衛生の概要 ・空気環境、衣服住居の衛生、上下水道と廃棄物、衛生害虫とネズミ、環境保全 感染症 ・感染症の総論、人と感染症、病原微生物、感染症の予防 ・感染症の各論、主な感染症、具体的な対策例 衛生管理技術 ・消毒法総論、消毒の意義、業務と消毒との関係、適用上の注意 ・消毒法各論、理学的消毒法、化学的消毒法 ・消毒法実習、各種消毒薬、消毒の実際、清潔法の実際 衛生管理の実施例 ・衛生管理要項 ・自主管理点検票
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	保健	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	90		
担当教員名	水野和明、桐原公郎、瀧口大輔、川森慎司		
教員実務経験	薬剤師、獣医師 以上の経験を踏まえ、美容技術の基礎となる人体の構造と機能の知識を養う		

授業・課目情報

学習目標	人体の構造・機能について学び、皮膚・毛髪などを生物化学的に理解する。美容の施術をするための知識を学ぶ。 皮膚や毛髪、人体の構造と機能などに関する専門知識を、実際の美容技術に関連させて理解させる。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 保健
授業計画	人体の構造及び機能 ・頭部、顔部、頸部の体表解剖学 ・骨格器系（種類と構造、はたらき） ・筋系（種類とその特徴、はたらき、作業と筋疲労） ・神経系（成り立ち、はたらき） ・感覚器系 ・血液、循環器系（血液のあらまし、仕組み） ・呼吸器系（あらまし） ・消化器系（あらまし、仕組み、はたらき） 皮膚科学 ・皮膚の構造 ・皮膚付属器官の構造 ・皮膚の循環器系と神経系 ・皮膚と皮膚付属器官の生理機能（作用、はたらき等） ・皮膚と皮膚付属器官の保健（状態、手入れ等） ・皮膚と皮膚付属器官の疾患（種類等）
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	香粧品化学	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	60		
担当教員名	村田健一、川尻義典、瀧口大輔		
教員実務経験	薬剤師 以上の経験を踏まえ、正確な科学的知識と適正な技術知識を養う		

授業・課目情報

学習目標	施術の際に使用する器具や香粧品等を正しく取り扱う為に必要な知識を学ぶ。また、様々な化学薬品や器具、道具を使用することを学ぶ。 美容機器や化粧品、薬剤などを正しく安全に使用する事を学ぶ。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 香粧品
授業計画	香粧品総論 ・ 香粧品総論 ・ 香粧品を使用する際に気をつけるべきこと ・ 香粧品の成り立ち ・ 油性原料、界面活性剤、高分子化合物、色材、香料 ・ 製品を安定させる配合原料、雑貨原料 香粧品各論 ・ スキンケア製品 ・ クレンジング用、コンディショニング用、トリートメント用香粧品 ・ メイクアップ製品 ・ ベースメイクアップ、ポイントメイク、アイメイク、まつ毛ケア製品 ・ ネイルメイクアップ、ネイルケア製品 ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品 ・ ヘアクレンジング用、ヘアコンディショニング用、ヘアスタイリング料 ・ パーマ剤、ヘアカラー製品、スカルプケア製品
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	文化論	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	60		
担当教員名	小村巳希子、田野中典子、瀧口大輔、川森慎司		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの美容文化論研修課程修了 以上の経験を踏まえ、美的感覚を身につけ、芸術的な表現力と鑑賞力を養う		

授業・課目情報

学習目標	日本と西洋、それぞれの歴史の中で人々がどのような時代背景でどのような思想をもち、どのような美しさを求め、そしてどのようなファッションを展開したかを知ることにより、多くのデザインの要素やその組み合わせとその表現効果を学ぶ。 それらを学ぶことにより、伝えたいイメージの表現方法を知り、また、新しいデザイン・創造の一助となるように指導する。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 文化論
授業計画	総論 日本の理容業・美容業の歴史 ・美容業の登場 ・美容業（江戸時代、近代、現代） ファッション文化史 日本編 ・縄文・弥生・古墳時代 ・古代、中世、近世、現代 ファッション文化史 西洋編 ・古代、中世、近世、現代 礼装の種類 ・礼装（和装、洋装）
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	美容技術理論	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	150		
担当教員名	小村巳希子、田野中典子、杉谷美知、巻千栄美、銭谷香穂、瀧口大輔、川森慎司		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの美容技術理論と実習研修課程修了 美容実習の学習状況と選択科目との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	美容技術について整然と道筋を立てて理解をするために、科学的根拠や系統だった知識を身につける。美容技術に理論的根拠をあたえ、技術の習得を容易にするため、科学的合理的方法を学ぶ。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論 1 美容技術理論 2
授業計画	美容技術理論を学ぶにあたって ・美容理論と美容技術 ・美容技術における作業姿勢、必要な人体各部の名称 美容用具 ・美容技術における用具、各用具について シャンプーイング ・サイドシャンプー、バックシャンプー ・リンス、コンディショナー、トリートメント ・スキャルプトリートメント、ヘッドスパ・シャンプーイング総論 ヘアデザイン ・美容とデザイン ヘアカッティング ・ヘアカッティングとは、ヘアカッティングの基礎理論 ・カット技法 ・シザーズとレザーの扱い方 ・美容刃物 ・正しい姿勢、ブロッキング パーマネントウェーピング ・歴史と現在、パーマネントウェーブの理論 ・パーマ剤の分類、パーマ剤に関する注意事項 ・パーマネント技術・縮毛矯正 ヘアセッティング ・ヘアセッティングの各技術理論 ・アップスタイル、ウィッグとヘアピース ・ローラー、ブロードライ、アイロン、バックコーミング ヘアカラーリング ・カラーリング概論、カラーの種類、タイプ別特徴 ・染色メカニズム、色の基本、毛髪のレベルとアンダートーン ・パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項 ・ヘアカラーリングの道具 ・酸化染毛剤、酸化染毛料の技術手順、ブリーチ エステティック ・概論、皮膚の生理と構造 ・ボディケア技術 ・カウンセリング、マッサージ理論、フェイシャルケア技術 ネイル技術 ・概論、種類、構造と機能 ・カット形状、公衆衛生、カウンセリング ・ネイルケア、アーティフィシャルネイル、マッサージ メイクアップ ・概論、顔の形態学、色彩、生理と構造 ・アイブロウ、リップ、まつげエクステ ・道具、スキンケア、ベースメイク、アイメイク 日本髪 ・由来、名称、特徴、調和、装飾品、結髪道具、結髪技術、手入れ、かつら 着付けの理論と技術 ・目的、礼装、季節、帯、小物、各部名称、たたみ方、一般的概要、 ・留袖、振袖、帯締め、帯揚げ ・男子礼装、紐の結び方、袴、婚礼、和装花嫁、洋装花嫁
授業の進め方	講義、小テスト、確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	運営管理	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	小村巳希子、杉谷美知、瀧口大輔、川森慎司		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの運営管理研修課程修了 美容業において、適切な接客態度の重要性と消費者対応の基本を養う		

授業・課目情報

学習目標	よりよい美容サービスによる顧客満足実現のための、経営者の責任・役割・雇用についての経営者目線で学ぶことにより、美容師として働く自分の姿を考え、より有能な人材として活躍できる知恵を身に付ける。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 運営管理
授業計画	経営者の視点 ・経営とは・経営者とは ・理容業・美容業の経営について ・資金の管理 人という資源 従業員としての視点 ・人という資源 ・健康・安全な職場環境の実現 ・従業員の視点から 顧客のために ・サービス・デザイン ・マーケティング ・サービスにおける人の役割
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	美容実習	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	実技
時間数	900		
担当教員名	小村巳希子、田野中典子、杉谷美知、巻千栄美、銭谷香穂、瀧口大輔、川森慎司		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの美容技術理論と実習研修課程修了 美容理論の学習状況と選択科目との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	美容技術について顧客満足に繋がる接客姿勢や技術習得を身につける。 美容技術の理論的根拠に基づいて、技術の習得を容易にするため、実践的な方法を学ぶ。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容実習 1、美容実習 2
授業計画	・シャンプーイング クロス掛け～ブラッシング、サイドシャンプー、バックシャンプー トリートメント、ヘッドスパ ・ヘアカッティング ワンレングスカット、グラデーションカット、レイヤーカット、 セイルレングスカット、レザーカット ・パーマネントウェービング ブロッキング、ワインディング、バリエーション ・ヘアセッティング ヘアカーリング、ヘアウェービング、ローラーカーリング ブロードライスタイリング、アイロンセッティング、アップスタイル ・ヘアカラーリング 酸化染毛剤、酸性染毛料、塗布技術のいろいろ ・エステティック エステティック備品類、フェイシャル及びデコルテマッサージ 背中マッサージ、フェイシャルパックとマスク ・ネイル技術 ネイルケア、アーティフィシャルネイル、ネイルアート、手と足のマッサージ ・メイクアップ スキンケア、ベースメイクアップ、アイメイクアップ、アイブロウメイク リップメイク、ブラッシュオンメイク、まつ毛エクステンション ・着付け技術 留袖着付け技術、振袖着付け技術、男子礼装羽織袴着付け技術、 女子袴着付け技術、打掛着付け技術、伝統的な花嫁化粧
授業の進め方	実技、グループワークと定期採点、確認、復習
試験の実施方法	学期末試験 相モデル及びモデルウィッグによる実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	社会福祉	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	前川直樹		
教員実務経験	社会福祉士 以上の経験を踏まえ、社会福祉の意義と福祉施設や地域のボランティア活動の重要性を学ぶ		

授業・課目情報

学習目標	社会保障に関する基礎的な知識を身につけ、高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい社会福祉の実現 社会福祉を学ぶことを通じて、適切な対応が出来る知識と技術を身につけて、地域の人々から支持されることを目指す。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 社会福祉
授業計画	現代社会と社会福祉 医療保障 所得保障 社会福祉 高齢者と障害者の体と心 高齢者・障害者の介助 高齢者・障害者に対する美容の実践 美容師と社会貢献活動
授業の進め方	講義 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学年末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	芸術	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	30		
担当教員名	国友博		
教員実務経験	高等学校美術講師、絵画教室講師 以上の経験を踏まえ、ヘアスタイルをデザインするために必要な知識と技術を養う		

授業・課目情報

学習目標	優れた芸術作品に親しみ、鑑賞する能力を身につけ、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。 顔のバランスやプロポーションに対する理解を深め、正確に観察する力、またヘアデザインについての創作的な技術を身につける。
教科書	ペン1本で誰でも描けるパターンアート 「ゼンタングル」 決定版 脳の右側で描け ワークブック 第2版
授業計画	基礎技術 ・ヘアデッサン（顔のバランスやプロポーション） 見る目、形を見る力つけ、表現する 応用技術 ・総合的な物の考え方 ・発想力を生かしたボード制作 ・道具を合理的に使用した作品制作
授業の進め方	鉛筆、色鉛筆、絵の具等を用いての作品制作
試験の実施方法	学年末試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	メイクアップ	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	60		
担当教員名	小村巳希子、田野中典子、杉谷美知、巻千栄美、銭谷香穂、瀧口大輔、川森慎司、竹本瑛美、富和葉、米谷海音		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターのメイクアップ研修課程修了 美容理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	メイクアップの基礎理論を十分に理解したうえで、実践として相モデルで人の顔に触れることに慣れながら基礎技術を身に付けると同時に、お客様に対する気配りや心遣いを学ぶ。また応用として、様々なメイク手法を知り、イメージに合わせたメイクが出来る様に指導する。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容技術理論 2 美容実習 2
授業計画	メイクアップ概論と顔の形態学的な観察 - 顔のプロポーション - 顔の骨格と筋 メイクアップの道具 - 道具の使い方 - ブラシの洗い方 スキンケアとベースメイクアップ - スキンケアの手順 - ファンデーションの目的と手順 アイメイクアップとアイブロウメイクアップ - アイシャドーのテクニック - アイラインのテクニック - 眉の描き方 - アイカールのテクニック - マスカラのテクニック リップメイクアップとブラッシュオンメイクアップ - リップの描き方 - ハイライトとローライトの入れ方 フルメイクアップ - スキンケアからブラッシュオンまでの技術を通して行う 創作メイク - コンテストやヘアショーに向けてデザインのやスタイルを考えて技術を行う 花嫁化粧 - 和装花嫁を仕上げるための水化粧の手法を学び、技術を行う トータルメイクアップ - イメージに合ったメイク手法を学び、技術を行う
授業の進め方	実技(相モデル)、小テスト 確認、復習
試験の実施方法	筆記試験・実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	カット	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	60		
担当教員名	小村巳希子、田野中典子、杉谷美知、巻千栄美、銭谷香穂、瀧口大輔、川森慎司、竹本瑛美、富和葉、米谷海音		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの美容技術理論と実習研修課程修了 トニーアンドガイ認定講師 美容理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	トニーアンドガイのベーシックコースのディプロマ取得に向け、実技、またそれに関する知識を理解する。ワンレングス、グラデーション、レイヤーの3つのスタイルを通してシザー、コーム、ダッカールの使い方、正しい姿勢、カットの理論、正確なシザーリングを学んでいく。
教科書	(株) 髪書房 BASIC ワンレングス・グラデュエーション・レイヤー いちばんやさしくていねいなカットの基礎
授業計画	基礎知識 基本用語 シザーズの持ち方、動かし方 5つの型と姿勢 ワンレングスの定義と理論 ワンレングスの工程、技術 グラデュエーションの定義と理論 グラデュエーションの工程、技術 レイヤーの定義と理論 レイヤーの工程、技術 カットスタイルにおける展開図のパターン 3スタイルを応用しての創作カット トニーアンドガイベーシックコースディプロマ試験 特別授業 トニーアンドガイモデルカットセミナー 特別授業 トニーアンドガイカットコンペ
授業の進め方	講義・実技 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	1年次3学期末にトニーアンドガイディプロマ取得
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	着付け	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	実技
時間数	60		
担当教員名	西延枝、小村巳希子、田野中典子、杉谷美知、巻千栄美、銭谷香穂、瀧口大輔、川森慎司、竹本瑛美、富和葉、米谷海音		
教員実務経験	山野流着物着付師 美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの美容技術理論と実習研修課程修了 美容理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	着物をより美しく着るための基本的な技術の習得と、着物に関する知識を学ぶとともに、着物を着た時のマナーも身に付ける。		
教科書	財団法人国際美容協会編 着物 着つけ教本		
授業計画	和装補正づくり 浴衣 ・各自での浴衣着付 ・女子…半幅帯結び（一文字、文庫） 男子…貝の口 ・袖たたみ、本たたみの仕方 小紋 ・衿とじ ・長襦袢の着方 ・小紋着付 ・夜具たたみ、本たたみ、帯びょうぶたたみ、小物準備 ・名古屋帯の結び方 ・帯揚げの整え方 振袖 ・伊達衿付け方 ・振袖着付 ・帯結び（二枚扇） ・帯揚げの形づけ型 ・振袖たたみ方 留袖 ・補正～長襦袢の着付 ・留袖の着付 ・袋帯の帯結び（六通柄二重太鼓） ・帯揚げ（絞りの整え方） ・留袖たたみ方 着物を着たときのマナーについて ・座礼、立礼		
授業の進め方	実技（相モデル） 確認、復習 小テスト		
試験の実施方法	実技試験（留袖着付と二重太鼓） 筆記試験		
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。		

課目基本情報

授業科目名	美容総合技術	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	実技
時間数	270		
担当教員名	小村巳希子、田野中典子、杉谷美知、巻千栄美、銭谷香穂、瀧口大輔、川森慎司、竹本瑛美、富和葉、米谷海音		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの美容技術理論と実習研修課程修了 美容理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	美容技術をより実践的に顧客満足に繋がる接客姿勢や技術習得を総合的に身につける。
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 美容実習 1 美容実習 2
授業計画	・ヘアカッティング 刈込スタイル、サロンスタイル、アレンジスタイル フリースタイルカット ・シャンプーイング 毛髪管理、頭皮マッサージ、ヘッドスパの実践練習・成果確認 ・パーマネントウェービング バリエーション（サロンスタイル巻き） ストレートパーマ（ストレート薬剤、アイロン使用） ・ヘアカラーリング 人毛染毛におけるパッチテスト、酸化染毛剤、カルテ記入 ・ヘアセッティング アイロンスタイリング、バックコーミング・アイロンカールのアレンジ 創作アップ（アレンジスタイル作成） ブライダルセット（和装洋装ヘアアップスタイル） ・メイクアップ ポイントメイクでバリエーションを加えた技術 創作メイク（モデルの印象や雰囲気を変化させるメイク） フォト撮影メイク
授業の進め方	実技、グループワークと定期採点 確認、復習
試験の実施方法	学期末試験 相モデル及びモデルウィックによる実技試験とする。
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	ヘアメイクコース	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	90		
担当教員名	小村巳希子、田野中典子、杉谷美知、巻千栄美、銭谷香穂、瀧口大輔、川森慎司、竹本瑛美、富和葉、米谷海音		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 美容理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	就職後、美容師としてはもちろん、ヘアメイク・ブライダルスタイリストとして幅広く活躍できるように、限られた時間の中で求められる技術を正確に作り上げることができるとともに、接客（言葉遣いやお客様に接する姿勢など）を身につける。
教科書	日本化粧品検定1，2級テキスト SABFAテキスト
授業計画	理論 ・カウンセリングスキル 皮膚知識と肌トラブルの見分け方 ・肌トラブルの原因とお手入れ ・サプリメントの基礎知識 ・ブライダルの知識 イメージ操作 ・形とバランス ・色味のイメージとテクスチャー ・ベースメイクの作りこみ 洋装ヘア ・パーティーヘアスタイル ・相モデル ・作品制作 和装ヘア ・ダウンスタイル ・相モデル ・作品制作 ブライダルヘアメイク ・ヘアーチェンジ ・相モデル ・作品制作 ・ヘアアクセサリー制作
授業の進め方	実技(相モデル) 確認、復習
試験の実施方法	実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	ヘアカットコース	課目区分	選択課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	実技
時間数	90		
担当教員名	小村巳希子、田野中典子、杉谷美知、巻千栄美、銭谷香穂、瀧口大輔、川森慎司、竹本瑛美、富和葉、米谷海音		
教員実務経験	美容師の免許取得後、4年以上の実務経験 日本理容美容教育センターの美容技術理論と実習研修課程修了 トニーアンドガイ認定講師 美容理論の学習状況と実習との相互の連携を図って進めていく		

授業・課目情報

学習目標	入社後、即戦力となれるようカット技術に限らず他の技術からアシストまでの理解度を深めさせる。また、技術や現場での流れを理解し、動けるように指導していく。 9スタイルのイメージを展開図で理解できるよう指導し、お客様が求めるスタイルを自分で考え作り出せるようにする。
教科書	(株) 髪書房 BASIC ワンレングス・グラデュエーション・レイヤー いちばんやさしくていねいなカットの基礎
授業計画	ロング レイヤー ウィーピング ウルフミディアム グラボブレイヤー ショートスタイル メンズパーマ ショート刈上げパートスタイル エアリーボブ スタイリング ショートグラデュエーション ツイストパーマ ショートレイヤー 前下がりワンレングス ショートボブレイヤー・酸性カラー フォト（ヘアセット・メイク・フォト撮影） コンテストスタイル 創作カット サロシミュレーション
授業の進め方	実技 小テスト 確認、復習
試験の実施方法	学期末に実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

ソーシャルビューティー 科

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書

(シラバス)

(別表第 1 - 3)

昼間課程 ソーシャルビューティー科 (卒業所要単位: 67 単位以上)

課目区分	教科課目	総授業時間数	単位 (30h/単位)
理論課程	エステティック概論	30 時間以上	1 単位以上
	解剖生理学	90 時間以上	3 単位以上
	皮膚科学	30 時間以上	1 単位以上
	化粧品学	30 時間以上	1 単位以上
	運動生理学	30 時間以上	1 単位以上
	自然科学	30 時間以上	1 単位以上
	衛生と救急法	30 時間以上	1 単位以上
	サロン経営	60 時間以上	2 単位以上
	英会話	120 時間以上	4 単位以上
小 計		450 時間以上	15 単位以上
技術課程	フェイシャル	270 時間以上	9 単位以上
	ボディ	240 時間以上	8 単位以上
	脱毛	90 時間以上	3 単位以上
	メイクアップ	180 時間以上	6 単位以上
	ネイル	180 時間以上	6 単位以上
	高度美容技術	150 時間以上	5 単位以上
	総合実習	450 時間以上	15 単位以上
小 計		1560 時間以上	52 単位以上
合 計		2010 時間以上	67 単位以上

課目基本情報

授業科目名	エステ概論	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） 以上の経験を踏まえ、エステティシャンとしての社会的役割と基本的な心構えを養う。		

授業・課目情報

学習目標	エステティックに関する基礎的な知識を習得させ、エステティックの本質と現状を知ること、エステティシャンとしての社会的な役割と基本的な心構えを育てる。		
	日本エステティック協会 理論編3		
授業計画	【概論】 エステティックの概念 エステティックの本質と領域 ソワンエステティック 美と健康 エステティシャンとしての心構え 日本のエステティック 世界のエステティック		
授業の進め方	講義と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。		
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験		
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。		

課目基本情報

授業科目名	解剖生理学	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次2学期	授業の方法	座学
時間数	90		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） 以上の経験を踏まえ、エステティックの業務に関わる人体のしくみ、構造の働き、またホメオスタシスの基本原理とエステティック施術後の生体反応を理解する。		

授業・課目情報

学習目標	ヒトの身体の最小単位である細胞のもつ様々な構造と働きを理解する。 細胞・組織・器官・個体、どのレベルをとっても、それぞれの「働き（機能：function）に応じたつくり（構造：structure）」が対応していることを理解する。人体のしくみ、構造の働きの基本を理解し、その上で、エステティック施術を正しく行うために必要な、骨格・筋肉・血管・リンパ・神経についてはさらに一歩踏み込んで学ぶ。また、ホメオスタシスはすべての生命活動の基本原則であり、環境の変化に対して体内を安定した最適な状態に保とうとするしくみであることを具体的に理解する。																							
教科書	日本エステティック協会 理論編1																							
授業計画	「解剖生理学」 <table><tr><td>身体の基本</td><td>神経系</td><td>呼吸器系</td><td>消化器系</td></tr><tr><td>骨格系/筋系</td><td>感覚</td><td>循環器系</td><td>泌尿器系</td></tr><tr><td></td><td>内分泌系</td><td></td><td>生殖器系</td></tr></table> 「ホメオスタシス」 <table><tr><td>生命と適応進化の歴史</td><td>ホメオスタシスとは</td></tr><tr><td>・生命の3つの特徴</td><td>・ホメオスタシスの定義と発見</td></tr><tr><td>・生命40億年/はるかな旅</td><td>・ホメオスタシスの実際</td></tr><tr><td>・生命の適応進化とエステティック</td><td>・ホメオスタシスの具体例</td></tr></table> ホメオスタシスを制御するしくみ ・生命のホメオスタシスを維持する末梢のしくみ ・生命のホメオスタシスを制御する脳と3つの配線 ホメオスタシスを乱すストレス ・ストレスとは ・ストレス反応の発見からストレス学説へ ・心理的ストレスを創り出す“脳” 生命の持つ3つの時間軸 ・恒常性のゆらぎ、脳の体内時計が絶えず発振している「リズム」、生まれてから死ぬまでの「エイジング」というゆっくりした時間軸の3つの時間軸が同時に働いている。そこから、時間軸を投薬治療や食事、エステティックの施術などに取り入れた新しい美と健康の考え方や取り組みがなされていることを認識させる。				身体の基本	神経系	呼吸器系	消化器系	骨格系/筋系	感覚	循環器系	泌尿器系		内分泌系		生殖器系	生命と適応進化の歴史	ホメオスタシスとは	・生命の3つの特徴	・ホメオスタシスの定義と発見	・生命40億年/はるかな旅	・ホメオスタシスの実際	・生命の適応進化とエステティック	・ホメオスタシスの具体例
身体の基本	神経系	呼吸器系	消化器系																					
骨格系/筋系	感覚	循環器系	泌尿器系																					
	内分泌系		生殖器系																					
生命と適応進化の歴史	ホメオスタシスとは																							
・生命の3つの特徴	・ホメオスタシスの定義と発見																							
・生命40億年/はるかな旅	・ホメオスタシスの実際																							
・生命の適応進化とエステティック	・ホメオスタシスの具体例																							
授業の進め方	講義と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。																							
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験																							
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。																							

課目基本情報

授業科目名	皮膚科学	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） 以上の経験を踏まえ、エステティック業務に関わる皮膚の働きとしくみを理解する。		

授業・課目情報

学習目標	皮膚は私たちの身体の守るバリアとして、体表面全体を覆う最大の臓器であり、紫外線や乾燥などの影響を防ぎ、身体内部のホメオスタシスに大きな役割を果たしていることを理解する。 皮膚の働きとしくみを理解し、美しく健康に保つためのスキンケア方法を、肌と環境と肌分析についても深く学ぶ。
教科書	日本エステティック協会 理論編1
授業計画	皮膚の基本知識 ・皮膚の役割 ・皮膚の構造と働き 美容上大切な皮膚の6つの働き ・皮脂膜 ・角質層バリア ・表皮ターンオーバー ・メラノサイトの働き ・毛細血管の働き ・線維芽細胞 ・皮膚の働きのバランス 肌の美しさを損ねる原因 ・紫外線 ・寒気 ・乾燥 ・加齢 ・女性のリズム ・精神的ストレス ・胃腸の不調 ・生活習慣 さまざまな肌状態 ・肌意識の年代変化 ・美しい肌 ・衰えた肌 ・色素沈着を起こした肌 ・ニキビ ・肌荒れと敏感 肌と環境 ・肌と地域気候 ・肌と気象の季節区分 肌分析 ・目的 ・肌分析を行ううえで考慮すべきポイント ・肌質チェック項目 ・肌タイプ
授業の進め方	講義と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	化粧品学	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1・2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	上田和雄、藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希		
教員実務経験	薬剤師（上田）、日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） 以上の経験を踏まえ、エステティックに関わる化粧品の規定内容、使用目的、働きの知識を養う。		

授業・課目情報

学習目標	化粧品概論、フェイシャル・ボディ化粧品を中心に理解を深め、化粧品の選択やお客様に情報提供できるように指導する。 全体的に理解を深め、化粧品に関するコンサルティングができるように指導し、お客様とのコミュニケーションが円滑になるように指導する。
教科書	日本エステティック協会 理論編2
授業計画	化粧品概論 ・化粧品、医薬部外品と薬事法 ・化粧品の分類 ・化粧品の品質と品質保証 ・化粧品の取り扱い上の留意点 フェイシャル化粧品 ・目的と働き ・洗顔化粧品 ・整肌化粧品 ・賦活化粧品 ボディ化粧品 ・目的と働き ・洗浄料 ・シェイプアップ料 ・サンケア料 ・制汗、防臭料 ・浴用料 ・脱毛料 メイクアップと化粧品 ・目的と働き ・ベースメイクアップ料 ・ポイントメイクアップ料 ネイル化粧品 ・目的と働き ・ネイルポリッシュ ・ポリッシュリムーバー ヘアケア化粧品 ・目的と働き ・洗髪料 ・育毛料 ・ヘアスタイリング料 ・トリートメント料 ・パーマネントウェーブ料 ・染毛料、ヘアブリーチ フレグランス ・目的と働き ・女性用香水 ・香水以外のフレグランス 化粧品の原料 ・使用目的と剤型タイプの特徴 ・水性原料 ・保湿剤 ・油性原料 ・界面活性剤 ・高分子化合物 ・着色剤 ・香料 化粧品に用いさせる薬剤とその働き ・紫外線カット剤 ・酸化防止剤 ・防腐防カビ剤 ・美白剤 ・肌荒れ防止剤 ・ニキビ用薬剤 ・制汗、防臭剤
授業の進め方	講義、グループワークと定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	運動生理学	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次2学期	授業の方法	座学、実技
時間数	30		
担当教員名	明野千絵、藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） 一般社団法人スポーツリズムトレーニング協会 STAR認定インストラクター、ダンス、ヨガインストラクター（明野） 以上の経験を踏まえ、エステティック業務に関わる姿勢維持、運動の重要性を理解し、又、運動法を身につける。		

授業・課目情報

学習目標	運動生理学では、運動することで私たちの身体が安静時より、どのように変化するかを知り、運動時に受ける負荷（ストレス）に打ち勝つための機能向上、つまり適応力を高めて行くことの大切さを学ぶ。また、エステティシヤンの姿勢維持の大切さを学ぶ。
教科書	日本エステティック協会 理論編2
授業計画	運動生理学とは ・運動の必要性 ・運動の効果 ・筋肉について ・筋収縮のエネルギー ・筋疲労と超回復 ・呼吸、心臓と運動 ・血液と運動 運動とアンチエイジング ・筋肉と老化 ・呼吸、心臓と老化 ・骨、関節と老化 ・メタボリックシンドローム ・ストレスと運動 運動と代謝 ・エネルギー代謝 ・糖質と代謝 ・脂質と代謝 ・タンパク質と代謝 ・基礎代謝と運動 運動プログラム ・運動プログラムの作り方 ・運動の種類 ・運動、トレーニングの原則 ・運動の強度 ・運動の持続時間、頻度 ・運動と消費カロリー 姿勢、ポジショニング ・姿勢の維持 ・動作と姿勢の関係 運動の実際、ストレッチの効用 身体の柔軟性 姿勢ストレッチ 呼吸法/ヨガ 表現/ダンス ウォーキング法
授業の進め方	講義、実技と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	自然科学	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） 以上の経験を踏まえ、エステティック機器の用具の正しい理解と安全かつ効果的な活用ができる知識を養う。		

授業・課目情報

学習目標	エステティックに関わる電気の基礎を家庭生活やエステティック技術実習における事例を交えながら、身近なこととして理解する。そのうえで、エステティックの主な機器の原理を理解する。エステティシャンをサポートするフェイシャル機器とボディ機器の用具の正しい理解と安全かつ効果的な活用ができるようにする。
	日本エステティック協会 理論編2 技術編4
授業計画	【エステティック機器学】 電気理論 ・電気の基礎知識 ・静電気とは ・電流の三大法則「発熱」「電気分解」「磁場生成」 ・直流と交流 ・家庭用電気の東西(交流の周波数の違い) 人体と電気 ・「化学物質による情報伝達」と「電気的情報伝達」 ・電気信号伝達のメカニズム エステティック機器の種類と原理 ・エステティック機器の種類…フェイシャル機器、ボディ機器、カウンセリング機器 ・エステティック機器の原理…低周波機器、高周波機器、イオン導入、電気洗浄 超音波
授業の進め方	講義と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	衛生と救急法	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、年次
開講学期	1年次2学期	授業の方法	座学
時間数	30		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） 以上の経験を踏まえ、消毒法の原理、衛生の意義と重要性を理解し、身につける。また、救急法の基礎的知識と方法の習得、エステティシャンとして応急手当、一次救命措置を行う社会的意義を理解する。		

授業・課目情報

学習目標	公衆衛生、衛生管理の意義を学び、エステティック施術に必須である具体的な衛生管理の実践を行うため、物理的消毒方法と化学的消毒方法について理解を深める。また消毒対象物ごとの適切な衛生管理が実践できるようにする。救急法では正しい救急法の考え方から基礎的な知識と方法を習得させ、エステティシャンとして応急手当と一次救命処置を行う社会的な意義を理解させるとともに、サロンの内外において救急の場に遭遇した際に適切で具体的な対応ができる意識を育てる。
教科書	日本エステティック協会 理論編3
授業計画	「公衆衛生」 ・公衆衛生とは何か ・公衆衛生の歴史（世界） ・公衆衛生の歴史（日本） 衛生管理 ・衛生管理全般 ・種類と基本的な使用法 ・消毒の準備・用具 ・施術にかかわるものの消毒方法 感染症 ・感染のメカニズム ・関連する感染症 衛生管理の実践 ・手指の衛生消毒 ・手指の洗浄と消毒 ・消毒剤の効果と特徴 「救急法」 救急法の基本 ・正しい救急法 ・応急手当と一次救命処置 ・心構え ・救助者が行ってはいけないこと エステティシャンに関わる救急法 ・応急手当 ・一次救命処置 傷病者の移動
授業の進め方	講義と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	サロン経営	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学
時間数	60		
担当教員名	北本福美、藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希		
教員実務経験	臨床心理士/音楽療法士（北本）、日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） 以上の経験を踏まえ、サロンの経営方法についての基礎的知識や具体的手段の知識、また職業倫理、栄養学、関連法規、カウンセリングの知識を養う。		

授業・課目情報

学習目標	サロンの開店から経営方法について基本的な考え方や具体的手段について学び、サロン経営の目標意識を育てる。栄養学では食物の栄養素と健康の関係をj知ること、エステティック施術後の良い状態を保つためのアドバイスに応用できるように指導する。関連法規ではエステティックに関連する法律の基礎的な知識を習得させ、エステティック業を営む上で安心・安全の社会的意義とその重要性を理解し、エステティシャンとして法令遵守の意識を育てる。カウンセリングでは心理的カウンセリング手法と、コンサルティングのアドバイスの要素をふまえた、基礎的な知識を習得させ、カウンセラーとしての役割を育み、実際の顧客満足度の高い施術へと活用させる。職業倫理では顧客、雇用主、同僚等と、秘密保持の原則を保ちながら良好な関係を維持し、模範的なサロンとして高いレベルの倫理的行動の実践とプロ意識を育てる。
教科書	日本エステティック協会 理論編3
授業計画	「サロン経営」 ・サロン開設のシュミレーション ・サロン運営と管理 ・サロン繁栄のために 「栄養学」 ・栄養の基本 ・健康と栄養 ・サプリメント ・食品添加物 「カウンセリング」 ・エステティックカウンセラーの役割 ・心のメカニズムと顧客心理 ・カウンセリングの流れ、手順 ・コンサルテーションシート（肌状態の評価） 「関連法規」 ・法の基礎知識 ・消費者保護 ・経済行為に関する法律 ・人の身体に直接触れる職業に関連する法律 ・エステティック業界の統一自主基準 「職業倫理」 ・サロンでの規律と効率性の開発 ・サロン規則 ・人との接し方 ・職業意識
授業の進め方	講義、グループワークと定期的に小テストを実施 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	英会話	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	2年次
開講学期	2年次1学期	授業の方法	座学
時間数	120		
担当教員名	リョウ プリシラ		
教員実務経験	サロン、企業での接客業務に必要な英会話能力を習得し、エステティック実習や選択科目との相互の連携を図って進めていく。		

授業・課目情報

学習目標	サロンや美容部員のサービスカウンターでの接客業務に必要な仕事がスムーズに効率的に進められる英会話能力を身につける。 英会話に慣れ、コミュニケーションがとれるようにすることで仕事の幅を広げ、国際的な活躍に役立てる。
教科書	英会話テキスト（オリジナルテキスト）
授業計画	基本的な英会話 接客英会話 ・お客様のお迎え ・お客様のご案内 ・メニューについて話す ・ビフォーカウンセリング（施術前） ・施術中のお声がけ ・商品提案 ・質問に対するお答え ・アフターカウンセリング（施術後） ・次回ご予約 英語でのコミュニケーション ・基礎 ・聞く力と話す力 （来客対応、電話対応、アポイントメント、訪問、情報共有、チームコミュニケーション） コミュニケーション実践 ・基礎 ・応用 （接客、営業、クレーム対応、会議、ヒアリング）
授業の進め方	講義、ヒアリング、グループワークと定期的に小テストを実施 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 面接試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	フェイシャル・エステティック	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	270		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） エステティックフェイシャル実習における基礎的知識、技術力を養い、選択科目や専門知識との相互の連携を図って進めていく。		

授業・課目情報

学習目標	エステティック技術の基本的な流れや一つ一つの目的、手法、効果について理解する。エステティック技術のすべての理解を深め、トリートメント前に顧客の肌を整え、肌洗浄を行い、一人一人のお客様の肌タイプ、及び状態を十分考慮して正確な化粧品を選択し、道理にかなった手順で施術を続けることができる能力を備える。的確で詳細な肌分析を論理的な順序で行う能力を備えさせ、拡大鏡を使用し次に行うフェイシャルトリートメントを簡明に決定できるようにする。
教科書	日本エステティック協会 理論編1・2・3 技術編4・5
授業計画	フェイシャルエステティックの目的と効果 ・目的 ・効果 フェイシャルエステティックの流れ 「事前準備」「ビフォーカウンセリング」「フェイシャルトリートメント」「アフターカウンセリング」 事前準備とカウンセリング ・事前準備 ・ビフォーカウンセリング（施術前確認） ・カウンセリング後のトリートメント準備 フェイシャルトリートメント ・クレンジング ・スチームタオル ・施術中のカウンセリング ・ディープクレンジング ・電気機器 ・マッサージ ・パック/マスク ・仕上げ ・アフターカウンセリング （それぞれの禁忌事項、施術方法、利点、様々なピーリング/スクラブ、ブラシ及び粧材について正しい知識を持たせる） 電気機器 ・電気機器を使用したお手入れ ・スキンチェック（マイクロスコープ/肌拡大器/ブラックライト 脂分計/水分計/皮膚温度計） ・ディープクレンジング（スチーマー/ブラシ/吸引/エレクトロクレンジング） ・パター ・超音波 ・バイブレーション ・高周波 ・イオン導入 マッサージ基本手技 ・基本6手技について①手法 ②効果・作用 ③ポイント ・マッサージの適応
授業の進め方	講義、実技と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験 実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	ボディ・エステティック	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次2学期	授業の方法	座学、実技
時間数	240		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） エステティックボディ実習における基礎的知識、技術力を養い、選択科目や専門知識との相互の連携を図って進めていく。		

授業・課目情報

学習目標	全身トリートメント（マッサージ、パック等）を行う上で知っておくべきそれぞれのトリートメントの目的、手法、効果、基本の手技の違いやポイントについて理解する。電気機器の使用目的、効果、注意事項、禁忌事項を学ぶことで安全で効果的に機器が使用できるよう理解を深める。
教科書	日本エステティック協会 理論編1・2・3 技術編4・5
授業計画	ボディエステティックの目的と効果 ・目的 ・効果 ボディエステティックの流れ ボディコンサルテーション ・情報を得る ・姿勢 ・採寸 ・測定の仕方 ・体型 ・姿勢不良 ・肌状態 ・筋肉の状態 ・脂肪沈着 ・セルライト沈着 ・皮下脂肪沈着 ・適した運動法 ・体格指数（BMI） ・分析における手順、技術、時間管理 ・情報からトリートメントプランの決め方 事前準備とカウンセリング ・事前準備 ・ビフォーカウンセリング（施術前の確認） ・カウンセリング後のトリートメント準備 ボディトリートメント ・ボディの観察 ・温熱トリートメント ・ディープクレンジング ・電気機器 ・マッサージ ・パック/マスク ・仕上げ ・アフターカウンセリング（施術後のフォロー） （それぞれの目的、手法、禁忌事項、注意事項について理解する） 角質除去（エクスフォリエーション） ・角質除去の目的 ・スクラブや角質除去剤についての知識 ・利点 ・禁忌事項 ・適切なアフターケア 電気機器 ・低周波機器 ・パイプレーター（G5） ・吸引（サクション） ・ボディガルパニック ①機器の使用目的と効果 ②注意事項 ③禁忌事項を理解し、正しく機器を使用できるようにする ボディマッサージ 基本7手技について①手法 ②効果・作用 ③ポイントを理解する
授業の進め方	講義、実技と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験 実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	脱毛	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	90		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） ワックス脱毛に関する基礎的知識、毛髪理論、技術力を養い、選択科目や専門知識との相互の連携を図って進めていく。		

授業・課目情報

学習目標	ワックス脱毛に関する基本的な毛髪理論と厳格な衛生的配慮をしつつ適切で効率的な技術を提供するのに必要な基礎的知識及び技術を習得させる。
教科書	日本エステティック協会 技術編1
授業計画	毛髪学 ・体毛の役割 ・毛の構造 ・毛周期（ヘアサイクル） ・体毛の種類 ・ムダ毛の処理法 ・最近の市場性の情報提供 ・体毛とホルモンの関わり ・毛の成長に関連する異常な状態（障害及び疾患） ワックス脱毛の目的と効果 ・ワックス脱毛と他の脱毛法との違い ・ホット（ハード）とストリップ（ソフト）ワックス脱毛の相違 ・各ワックス法の利点/欠点 ・各ワックス法使用での適応を見分ける 各ワックス脱毛（ハード/ソフト）の流れ ・施術の流れ ・禁忌事項 ・注意事項 ・ホームケアアドバイス ・手の保護（手袋）を行う重要性 ワックス脱毛以外の種々の脱毛法の利点及び欠点 ワックス脱毛以外の種々の脱毛法の適応及び禁忌事項
授業の進め方	講義、実技と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験 実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	メイクアップ	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	180		
担当教員名	木村栄里菜、藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）JMA認定講師（田作）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） メイクアップに関する基礎的知識、技術力を養い、選択科目や専門知識との相互の連携を図って進めていく。		

授業・課目情報

学習目標	メイクアップに必要な基本的な知識と技術を身につけ、お客様の肌をより美しく、個性を引き出すようなメイクアップの仕上げを目標に指導する。また、お手入れをした肌を守り、維持するのにもメイクアップが必要であることについて理解させる。
教科書	日本エステティック協会 技術編2
授業計画	メイクアップ概論 ・顔の構造 ・筋肉と表情 ・顔のプロポーション ・メイクアップのための錯覚の応用 ・メイクアップの目的 ・準備/用具 ・化粧品の種類とテクニック メイクアップ技術（基礎） ・ベースメイクアップ ・ポイントメイクアップ（アイメイク/リップメイク/チークメイク） メイクアップ技術（応用） お客様の悩みや個性に合わせたメイクの仕上がりができる。 ・ベースメイクアップ 補正/コントロールカラー/コンシーラー/ハイライト/ローライトの使用効果と使用部位について理解させ、顔の凹凸を演出できる。 ・ポイントメイクアップ 【アイメイク】 アイシャドー：ハイライトを加えた多色遣いによる仕上げ、目の形と色の錯覚による目の表情 アイライン：アイラインテクニックによる目の強調 マスカラ：重ねて塗布することによる目の演出 アイブロー：形・配置の錯覚を確認 眉と目の位置関係や顔のバランスについて理解する 色の濃淡（ソフト/ハード）とライン（下降or上昇）による仕上りの違い 【リップメイク】 直線と曲線のラインについて理解し、全体イメージバランスに合わせた表現ができる。 【チークメイク】 ラウンドとシャープについての理解、ハイライトを使用し仕上りの質感を確認する。 パーソナルメイクアップ：お客様の個性を引き出すナチュラルメイクができる ・キュート ・クール/シャープ ・エレガント ・モード ・フレッシュ/活発 特殊メイク、エアープラシメイク
授業の進め方	講義、実技と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験 実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	ネイル	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	180		
担当教員名	村田美紀子、藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本ネイリスト協会認定講師（村田）日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） マニキュア技術に関する基礎的知識、技術力を養い、選択科目や専門知識との相互の連携を図って進めていく。		

授業・課目情報

学習目標	マニキュア技術を習得するために必要な技術理論と、基礎テクニックを習得する。爪は皮膚の付属器官である観点からも、爪に関する正しい知識を身につけなくてはならない。また、エステティシャンとして、自身のハンド&ネイルケアの実践にも役立つテクニックをマスターするため、技術理論を正しく学ぶ。
教科書	日本エステティック協会 技術編2
授業計画	マニキュアとは ・マニキュアの歴史 ・マニキュア（ハンド&ネイルケア）必要性 ・ネイル技術体系 ・指先の機能と爪の役割 ・爪の構造と働き ・爪の発生と成り立ち 手の骨格・関節・筋肉・腱 爪の病気とトラブル マニキュア化粧品の特徴と効果 マニキュア（ハンド&ネイルケア）の実際 ・マニキュアの準備 ・アームレストの準備 ・マニキュアテクニック ネイルリペア・ナチュラルネイルの修理 ・ネイルリペアに必要な材料と用具 ・ネイルリペアの方法 ・亀裂（ひび割れ）や二枚爪の修理 ネイルアート ・カラーグラデーション ・フレンチマニキュア ジェルネイル ジェルネイル（カラーリング） ジェルネイル（ジェルアート） ペディキュア ペディキュア施術テクニック（ケア&カラーリング）
授業の進め方	講義、実技と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験 実技試験
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。

課目基本情報

授業科目名	高度美容技術	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	150		
担当教員名	池田歩美、藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）AEAJアロマセラピー1級（北川） エステティック技術について、さらに深い理論と技術の活用法を養う		

授業・課目情報

学習目標	メイクアップ・マニキュア・ペディキュア技術を習得するために必要な色彩理論と、その活用法を習得する。また、エステティックの応用技術を学ぶことでエステティシャンとしての審美を養い、様々な場面で高度テクニックの知識や技術を活かせるようにする。		
教科書	日本エステティック協会	技術編2	選択科目編
授業計画	・アロマセラピー 精油の基本的知識/トリートメントの実践 ・色彩学 色彩理論/"色"が持つイメージと効果/配色/お客様に似合う色彩感覚を磨く ・リンパドレナージュ リンパ系の基本的知識/リンパドレナージュとは/トリートメントの実践 ・リフレクソロジー リフレクソロジーの基本的知識/歴史/トリートメントの実践 ・ケーススタディ 肌トラブル別の対応/カウンセリング/トリートメントの実践/症例研究 ・フットケア フットケアの基本的知識/足のトラブル、病気/トリートメントの実践 ・頭皮トリートメント 頭皮マッサージの基本的知識と技術/エイジングとの関係性/トリートメントの実践 ・ホットストーン ホット石の基本的知識/歴史/トリートメントの実践		
授業の進め方	講義と定期的に小テストを実施。 理解度を確認しながら進める。		
試験の実施方法	学期末試験 筆記試験 実技試験		
成績評価方法	100点満点の60点以上を合格とする 及ばない場合は追試験を行う。		

課目基本情報

授業科目名	総合実習	課目区分	必修課目
年度	2026	年次	1、2年次
開講学期	1年次1学期	授業の方法	座学、実技
時間数	450		
担当教員名	藤中瑞恵、田作杏菜、車 七海、倉田 栞、高橋有希子		
教員実務経験	日本エステティック協会認定講師（藤中、田作、車、倉田）シデスコ国際資格（藤中、田作、車、高橋） エステティック、メイクアップ、ネイルで学んだ技術を基に利益やサービス、経営等の連携を図って進めていく。		

授業・課目情報

学習目標	実際のサロンに入店し、実際の現場に立ち、経営に携わることにより、机上の学習では得られることの無い社会を学生という意識ではない視点からお客様に寄り添い、利益やサービスの習得をすることを目指す。
教科書	日本エステティック協会 理論編3
授業計画	技術メニューの実習 ・提供技術の実習練習 接客マナーの実習 ・ビジネスマナー ・接客マナー ・電話対応 ・ホスピタリティ ・クレーム電話の対応 ・ほう、れん、そう ・マナーと言葉遣い サロン業務について ・出勤～退社までの流れ ・整理整頓 ・清掃 ・清潔 ・躰 ・ルーティーンワーク サロンに関する法律 ・エステティックの定義 ・コンプライアンス ・エステティック業に関する法令 ・SNS使用上の注意 サロン営業のしくみ ・「利益」 ・損益計算書 ・損益計算書作成 ・「経費」 ・コスト計算及びメニュー価格 ・サロンに貢献できること サロンでの役割 ・経営理念 ・自分の役割 現場での練習（外部モデル実習、サロン実習）
授業の進め方	講義、グループワーク、実技を実施。 理解度を確認しながら進める。
試験の実施方法	営業成績によるレポート
成績評価方法	レポート評価